

6章 講師選びと依頼について

研修の実施に当たって、研修内容にふさわしい講師を選任し、研修依頼をすることは、研修自体の成否にとって大きな影響を与えるものです。特に、定められた予算の範囲内で適切な講師を選任し、研修を実施することが重要になります。ここでは研修講師の選任についての情報を提供します。

研修を企画する立場になった際に、前任者の行っていた研修を参照することは有効です。しかしながら、外国人児童生徒教育自体がまだまだ新しい課題であること、しかもまだ重要な教育課題として定着しているわけではないこと、さらにこの課題が地域の実情によって大きく異なることなどを考えると、前任者の実施してきた研修が現時点で適切かどうかを改めて精査することも必要です。もちろん、こうしたある種の「口コミ」情報によってもよい情報が得られることもありますが、新しい課題にふさわしい講師を発掘するには十分ではなく、マンネリ化を生じることもあることを意識しておくことが肝要です。ここでは、前任者の実施した研修に関する資料等を参照した上で、担当者がこのマニュアルを用いて研修を立案し、講師の選任を行うことを想定しています。

1. 大学や専門の研究機関、関係団体等から探す

①大学や専門の研究機関から講師を探す場合

多くの大学では、大学所属の教員、研究者について、その専門分野や業績等のプロフィールをホームページに掲載しています。例えば、「研究者一覧」「研究業績一覧」などが、大学全体で検索できたり、学部や学科単位の専門分野でも掲示されたりしています。比較的近隣地域の大学のHPから、研修内容に想定している専門分野の学部や学科を探し、そこで研究者一覧や業績一覧などをみることで、関連分野の講師を見つけることができます。そのうえで、HPに掲載されている研究者や専門家の著書や研修講師等の記録を参照して見ることで候補者を探すことができます。

東京学芸大学の場合には、大学全体としては、大学のホームページに「教員紹介」欄があり、検索できるようになっています。また、国際教育センターのホームページには、センター所属所属員の専門分野と業績、研修等の履歴が記されています。こうした資料をもとに講師の候補者を選ぶことになります。

②教員研修センター、教育センターなどの情報から講師を探す場合

独立行政法人「教員研修センター」は、毎年、さまざまな教員研修を行っており、そこで実施される研修内容と講師陣についての情報を提供しています。具体的には、『講師情報』といった冊子になっており、都道府県・指定都市・中核市教育委員会、教育(研修)センターなどに送付されているのでこれを参照することもできるでしょう。

また、皆さんに身近な存在である都道府県、市町村の教育研究所、教員研修センターなど（名称はさまざまであると思われます）などの機関では以前からの研修情報を蓄積しているところもあります。

2. 民間の団体、NPO、国際交流協会から探す

国際交流協会、国際交流センターなどの人材データベース、あるいは公益法人やボランティア団体などでは、研修の講師派遣を行っています。そのために講師一覧などを掲載しているところもあります。こうした団体の人材データベース、派遣講師案内などを参照することで、比較的身近にいる講師候補者を見出すことができます。

なお、東京学芸大学国際教育センターでは、当センターの実施してきた外国人児童生徒教育に関わる研修のアーカイブ、研修関係情報等を掲載している「こどものにほんご」コーナーがあり、ここにこれまで依頼してきた講師と講義名を掲載していますので、有効活用してください。

東京学芸大学国際教育センターのホームページ

<http://crie.u-gakugei.ac.jp/>

東京学芸大学国際教育センター「こどものにほんご」

<http://crie.u-gakugei.ac.jp/nihongo/>



3. 地域の実践者から探すー地域の受入校、地域の外国人児童生徒教育、日本語教育などの研究会・協議会など

地域には、外国人児童生徒教育や日本語指導に長年関わってきた教員、指導者がいます。そうした教員や指導者に声をかけることは、地域の実態と実践事例をもとに話をすすめてくれることが多く、とても有効です。教員の所属する校長等に話をし、講師として依頼したいものです。また、地域の関連する研究会や協議会もあります。そうした会に講師の推薦を依頼することもできます。

4. その他

その他、関連機関のホームページなどを参照することも可能です。外国人児童生徒教育に関する情報発信を行っている機関や団体のホームページには、有用な情報が多く記載されています。例えば、文部科学省のクラリネット（CLARINET）「海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育等に関するホームページ」などは行政施策の広報が主たる使命ですが、JSL カリキュラムの開発やさまざまな審議会、専門家など、関連分野の人材を知ることができます。クラリネットのHP は以下の通りです。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm